



素晴らしい偶然をちらして

きゅうかくうしお新作公演 2019.11.22(金)～12.1(日)

横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール

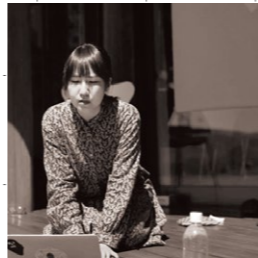
we disclose the process of our thoughts.



中原 楽 /音響

千葉県出身。
スピーカーの配置をデザインする時、3Dのパズルのように音を空間にはめ込む妄想が脳内で始まる。Luftzug 所属。

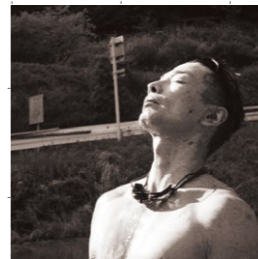
わたしが活かされる場所。多くの人がそんな場所を探しているかもしれない。わたしは子供を産まない決意をした。わたしの生きる場所はそこにはないと考えた。が、もしかしたらそんなことはないのかもしれないな。どうしようもなく「女」です。



村松 薫 /制作

愛知県出身。
2012年より北九州芸術劇場に勤務し、地域密着のダンス企画を多数手掛ける。現在は東京を拠点に制作として活動。

こんな田舎で生きていくのはごめんだと18歳で飛び出した故郷は、今年きゅうかくうしおのみんなと合宿に行って好きに変わりました。もうすぐそんな場所で赤ちゃんを産めることが楽しみです。ありがとう。



森山 未来 /踊り子

兵庫県出身。
1984年生まれ。演劇、映像、パフォーマンスといったカテゴリーに縛られない表現者として活動。
www.miraimoriyama.com

一つの命が幕を閉じる時、どこかで新たな命が生まれる。それは巡るもの。成長率はゼロがいい。ずるずると生を垂れ流すこともなく、死に急ぐ必要もない。思いを馳せることはあれど、それはいつかは来るものなのだと、ただ順番を待つのみだ。



松澤 聡 /映像

大阪府出身。
イスラエル・ベツァレル美術デザイン学院卒。好きな食べ物・甘いもの。思い出の場所・エルサレム。

親戚にオモロイ人がいると付き合いが楽しくなるじゃないですか。適当なことからの発見ってあるじゃないですか。仲間から影響受けるって素敵じゃないですか。僕はそのまま目の前の人と出来事を信じて生きるかな。

素晴らしい偶然をちらして

前作『素晴らしい偶然をあつめて』(2017年)からの約2年半、クラウド上でのやり取りや、定期的に行われるミーティングやリサーチ、さらには愛知県西尾市幡豆の水田とオリエンタルシティ香港での滞在制作など、常に作品に向けての意見交換をメンバー全員で積み上げてきました。

今作では、これまでに交わされてきた膨大なアイデアやイメージを元に、ダンスカンパニーでもなく、期間限定のユニットでもなく、コンスタントに関係性を築き続ける「きゅうかくうしお」のメンバー全員が出演者として一人ひとりの役割を全うすることで完成する舞台です。



石橋 穂乃香 /制作助手

東京都出身。
2007年頃から女優を始める。2010年で初舞台『カフカの変身』で森山氏に出逢い、その直後に辻本氏に出逢い、二人に魅了され、あれよあれよと、制作へ。

横に流れている時間の中で、縦に刻まれる瞬間が、生きていて何度かありました。一度刻まれると、刻まれる前には戻れない、永遠の一瞬たち。きゅうかくうしおの日々は私の長い縦軸です。



矢野 純子 /宣伝美術

沖縄県出身。
宣伝美術として舞台に関わる。異なる分野をつなぐ事にワクワクし、対象を問わずデザインしている。

人間は、「なぜ何のために生きるのか」を考える不思議な生物。そんな無駄なことも、突き詰めたら美しいのだと思います。人間として生まれた奇跡を、素晴らしい仲間と共有できる毎日に感謝です。

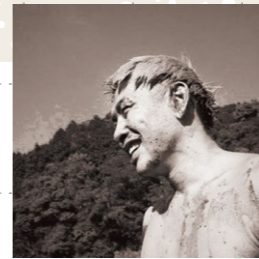
お題：いきる



河内 崇 /舞台監督

千葉県出身。
ダンスがない日常よりも、ある日常の方がよいのではないかと考えているので、様々な場に参加しています。

淡々とかつ眈々と。その結果坦々となることを待ち望みながら、生きる。



辻本 知彦 /踊り子

大阪府出身。
1977年生まれ、AB型。幼少期にダンスを始めず、小学校からバスケットに没頭し数々の成績を収める。18歳の時にダンスとスノーボードを始め、97年渡米後、自ら海外を転々し2007年シルク・ドゥ・ソレイユにて日本人男性ダンサーとして初めて起用される。現在振付家としても活躍をしている。
www.tsujimoto.dance

その人の中で生き続ける記憶。同じ時代を過ごしている存在、私の踊りが良くも悪くも記憶に残らなければ意味が無い、太陽の光が届く場所で過ごしてる。光なきところでは生きれない。見てくれた人の人生の一部に僕はなりたい。



吉枝 康幸 /照明

東京都出身。
1977年生まれ。1998年株式会社クリエイティブ・アート・スィンク入社、2006年新進芸術家海外留学制度にて渡英、2009年独立しフリーランスに、2016年株式会社 YAS 設立。

生きてる限りいつか死ぬ。死ぬと知ってて生きている。別れが来るのにまた出会う。大事にしたいな、今日の日を。

Creative Tree

クラウド上でのやり取りや、定期的に行われるミーティング、リサーチ、下記2箇所での滞在制作など、作品に向けての意見交換を常にメンバー全員で積み上げてきた。

愛知県西尾市幡豆 2019年5月7日～5月10日

幡豆での合宿の目的は日本人特有の身体性を探ること。農耕民族として低い位置に重心がある日本人の身体性を知るため、そして多忙な日々を送る二人の現実逃避のため、水田での田植え作業を体験。

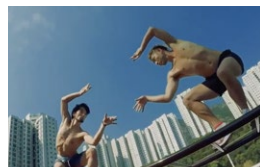
土、泥、水、虫とのふれあいから感じる気づきを言語化するプロセスをメンバー全員が行い、紡ぎ出された言葉を身体的ムーブメントに起こすなど、言葉と動きを往来する方法で動きのマテリアルをリサーチした。



香港 2019年10月28日～11月12日

貿易、金融におけるアジアの中心、そして多様な文化が融合する魅惑の都市、香港。

香港を代表するダンスカンパニー City Contemporary Dance Company が立ち上げた CCDC Dance Centre の協力により、横浜公演に向けてクリエイションを実施した。



幡豆や香港でのクリエイションの詳細や、ここにいたるまでの過程は、きゅうかくうしお公式サイト・SNSで、可能な限り全面的に公開中。

Web: kyukakuushio.com Instagram: [kyukakuushio](https://www.instagram.com/kyukakuushio) Twitter: [@kyukakuushio](https://twitter.com/kyukakuushio)

きゅうかくうしお

2010年、辻本知彦と森山未来が立ち上げたユニット「きゅうかくうしお」。

出会った当初はねじくれた感情（愛）により互いを認め合わず、否定し続ける日々。

しかし2010年、非生産的な関係性を打破するべく、ついに2人で作品を創ることを決意したのが「きゅうかくうしお」のはじまり。

ユニット名は、子どもが生まれたらつきたい名前として、辻本が「きゅうかく」、森山が「うしお」と命名したことによる。

現在では、今までに関わったスタッフをメンバーとして固定化し、9人体制で活動。

「素晴らしい偶然をちらして」

出演：辻本 知彦（踊り子）、森山 未来（踊り子）、河内 崇（舞台監督）、吉枝 康幸（照明 / YAS）、中原 楽（音響 / ルフトワーク）
松澤 聡（映像）、矢野 純子（宣伝美術）、村松 薫（制作）、石橋 穂乃香（制作助手）

衣裳協力：藤谷 香子（FAIFAI）

大道具コーディネイト：津村 恵美

記録映像：松尾 健太

記録写真：菅原 康太

レジデンスサポート：Jacky Fung、Enid Yu（CCDC Dance Centre）

Special Thanks：Ramza、Café Ocean、柄本 時生、御徒町凧、菅野 薫、土屋 太鳳、長塚 圭史、前野 健太、森山 直太郎

<横浜赤レンガ倉庫1号館>

小野 晋司、熊谷 敬子、中富 勝裕、中島 尚未、中祖 杏奈、小原 光洋、大川 志津子、山澤 真紀子、平野 奈月

主催：横浜赤レンガ倉庫1号館 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]、きゅうかくうしお

協力：CCDC Dance Centre（香港）

認証：beyond2020

後援：横浜アーツフェスティバル実行委員会